

24-63

<p>○麒麟 <small>仁獸あり</small></p> <p>麋身牛尾 <small>一角あり牡と</small></p> <p>麒麟 <small>北と</small></p> <p>麟 <small>生虫</small></p> <p>生草 <small>とよすむ</small></p> <p>聖人 <small>の世ふ</small></p> <p>麒麟 <small>の</small></p>	<p>頭書増補訓蒙圖彙卷之十二</p> <p>畜獸 <small>此部ふ山野人同よむ</small></p> <p>とくくのけと物とあると</p>
<p>麒麟 鹿</p> 	

○獅子の百獸
 の長きり
 一匹小
 五百里と走る
 虎豹狐等
 食ふ故
 補
 虎豹といふも
 獅子とたふ
 天竺の猛獸
 ゆく通力ま
 さいとゆ
 のやうにとり
 一名狼狽と
 り



獅子

○獅身
 異國の獸
 あり其形
 獅子に似く
 一角わり一名
 神羊と云
 能曲直と
 補
 其の罪
 ちたりの一獅
 罪ありは是
 と食罪か
 へん



獅身

○ 獅 虞 白 虎
 かんその
 尾身より
 かに 仁 獸
 かん
 ○ 豹
 虎にう似て
 ちの頭よく
 面白く毛色
 赤黄く白
 きやわら
 甚るかり故
 毛色
 とやい



○ 虎
 猫のおく
 大さ牛乃
 如く色黄小
 ちて赤足
 く一身の力
 兼足より疾
 小一目の光
 殺ら一月の
 をんる夢雷の
 かくく風
 とかこ山
 上て虎一
 吼とい百獸
 とふとい



○象の異國の
 大獸なり
 鼻牙多し
 食の口も
 あら鼻も
 吸い込み
 二一きん
 乳を大に
 出さむなり
 牙ととも
 てあつらひ
 あつらひ
 象牙といふ
 なる



○猿の熊に
 似たり象の
 鼻犀に
 目尾の牛の
 おく虎の
 足銅鉄及
 竹と食ふ
 くほひ
 けのの
 補
 とくわ
 夢とく
 枕ふむ
 猿
 名は



○犀の毛豕の
 おしく蹄
 三甲の
 頭の馬のぞく
 三角のり鼻
 上額上頭上
 熊の毛色黒く
 形手に似たり胸
 に白脂のり俗ふ
 熊白とつ洞丸
 せむと穴熊と
 本もむと本熊と
 つ能藩くはの
 なまごう能膳とま
 のお



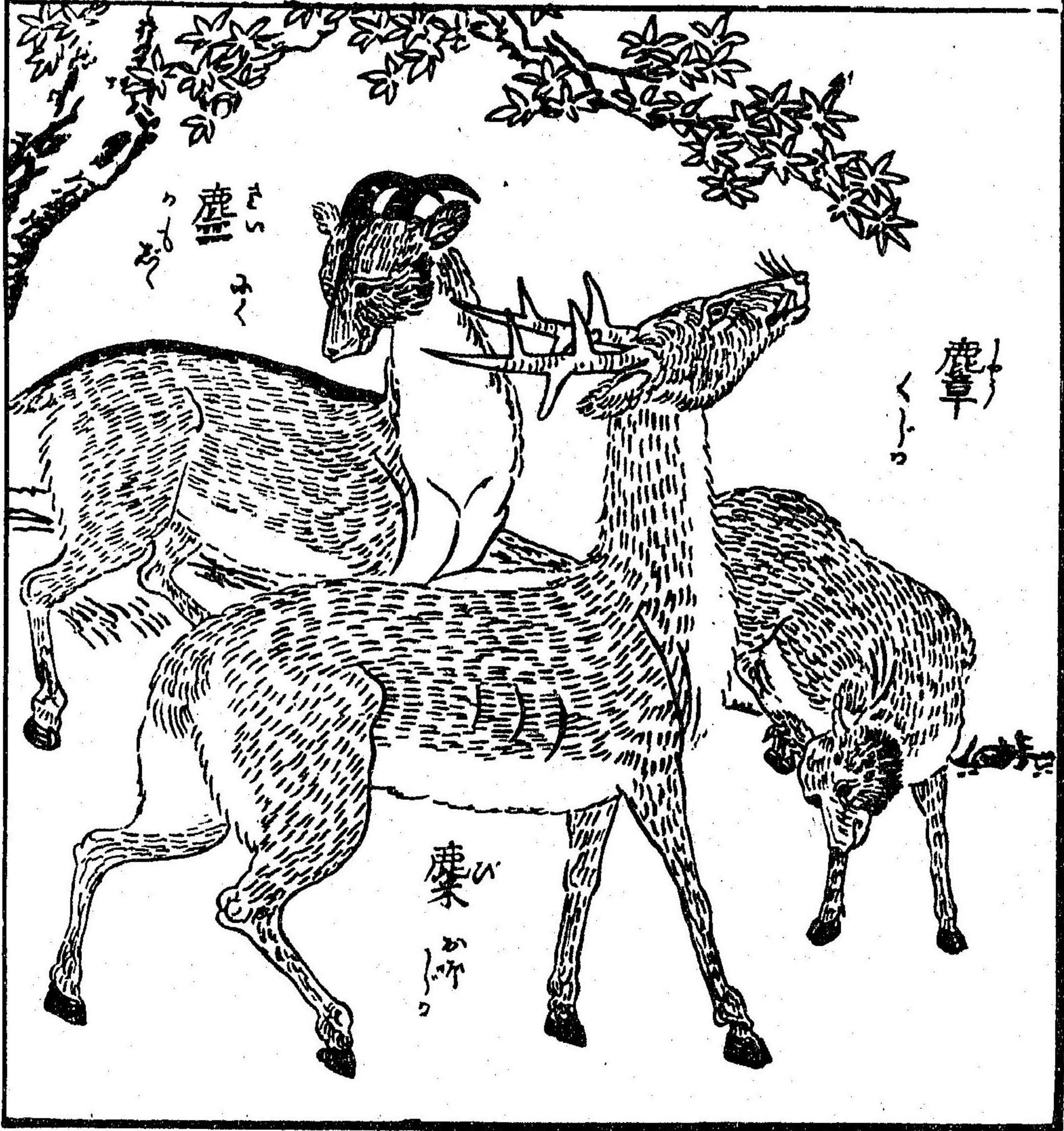
○狼の狗に似て大
 類とくは顔白く
 毛並るく後ひ色
 口をくちとらと
 かけく諸獸
 とくし食入
 う後とくそ
 豺の狼の
 かわ色をやく
 頬白く尾を
 狼よりへが
 小くかほく
 諸獸と食ふ
 惡獸のり



○鹿の馬のこゝ
 くはくはふわり
 頭長く脚細く
 角は細くて太あり
 人の指はじき
 四五寸ほどとて
 福とて

○鹿の羊に似て
 青毛みして太あり
 角は細くて太あり
 人の指はじき
 四五寸ほどとて
 福とて

○鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ



○鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ

○鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ
 鹿の鹿のこゝ



○鹿射の鹿草ふ似
 け小く色黒
 臍は香氣あり
 補 赤心うとつへ
 是あり故まのこ
 臍とつひとま
 ○羊ハ羊毛の香
 かなよく解と
 ありよく解と
 のま羊に
 ちこ入
 ○綿羊ハ羊の
 毛のせまの
 ちこ入
 胡羊と同



○豕ハ猪の惣名
 なる野猪蒙猪
 とあり不潔と食よ
 よんで豕といふ
 腎虚と補ふ
 ○豚家のま言ハ
 ろして常に食と
 ○野猪ハ腹小く脚
 かり毛褐色牙小
 てのむ抜さつ
 味耳毒ク癩癩と
 治し肌膚と補ふ
 ○山猪ハ項脊に棘
 鬣あり長さ二寸
 あり竹筋のごし觸
 ると矢と射さか



○馬の火氣と受
て生る火の赤
生る事わ
と故小肝めく
膽を膽本乃
精氣あり本胆不
是を故小七の肝と
くらりの死と
○駒の馬二家
と駒とり又五人
以上と駒とり
○驪の馬の純に
黒さりのあり
ろはかな
○騮のくれ馬乃



黒さるく
かろはあり
駢同のひま
か
○聰の馬の青
とろさ
か
わけりあり
連鉄草毛
○駢の馬の
色の純
とてま
か
駢同
からひま



○狐の物小似く
鼻とく尾大
力や益ら金
夜や馬骨伏
多て吹へ光と
食と求ひ星
と狐火のつ又ま
多て光とふと
もの百歳と移
か斗と礼して化
とらる
○猫の眼睛子午
酉小の家のま
寅申已亥小の備月
の如く丑未辰戌



狐
猫
物

の末枝のこゝ鼻
半に冷かり夏至
一日のま
○狸の尻狸あり猫
狸のや猫狸のほ
食とがと頭ま
口かあり虎狸と
○貉の狐狸ふけ
毛黄く毛褐
なりうなる昼
いつて夜出
○猫の犬ふゆて
とり足黒く毛褐
尾分り尾足ま
ゆくとおと耳
珍耳て人と恐



貉
狸
猫

谷小生とてつらた
 ぬさのおし陰の
 鹿射の
 ○兎の筋定みド
 かく尻丸の孔を
 辛平毒の中
 と捕い氣をまも
 ○猿の馬のたぐひ
 猴ふ似て辟月をじ
 くと樹の枝と攀
 ○猴のつらふい
 くらも腹ふ脾をふ
 若く行とろく食
 と踏とろくま
 ゆくはまぐ
 長物伝書と



○教犬の大犬
 ちと四人多う瓜
 教とつた谷よこま
 と唐太とつ人
 ○大の味鹹温主あ
 一五腕と安一氣
 とせし腎に耳
 ○濃犬の毛長
 危抱獅犬同
 ひくいぬか
 ○蛸鼠へ猫のど
 脚短く尾長
 色青白一足毛
 人とまも山谷田野
 れはと狸同
 ○靈猫へ南海の山



○ 獺の水中に居る
 四足とも短く色
 青黒く魚状なり
 水氣脹満
 と浴を多食べ
 ○ 貂の前のたぐひ
 大やて黄黒色
 かや毛やうへ
 わやうへり帽子
 鎖やて寒気と
 せく俗栗前と
 ○ 鼯の小狐のてく
 肉翅蝙蝠に似る
 脚みく尾長
 さまんなる声人の
 よんぞく大煙と



喰ふきたりた
 にかもしやう
 ちまにのやう
 わやう
 ○ 狸の前のよみ
 夕う皮衣よつ
 倉一各乳鹿
 ○ 海狗の脇肺
 かな形爪にて
 尾魚や身に
 音白と毛わり
 青黒と點あり
 肺の脾腎の寄
 と海を
 ○ 海獺の獺小似
 て大さたのて



脚の下の皮の毛あはる
 て濡るをわづらふ
 ○水牛の色をく膿太
 どもをわづらふ猪ふけり
 ちまふ食をれ消湯を
 やめ脾胃をやぬい毒と
 おきぬい水腫と治す
 ○猩猩の海中にもむ
 毛を黄ゆそさるの
 耳白く面も受のそに
 て酒飲この血をうて
 ○狒々の猴年と積て
 ちまふそし形人のそに
 て大かり唇長く互踵
 彼より迅走て人と食ふ
 んとすは



○鼠の四齒ありて牙あり
 爪の四つは丸くあり小足
 驚風をんえと治す
 ○鼯の尾を長くし
 されめり人とくらを痛
 ずと瘡をかき
 ○鼯の尾を長くし伯
 すりのあり尾に似て頭
 のを長くし尾が毛を
 黄黒し地中をうらてみ
 くら合ふ日月の光を
 ○鼯の尾を長くし
 四足あり尾大あり
 黄ゆそさるの
 ○角の毛を長くし
 角を長くし



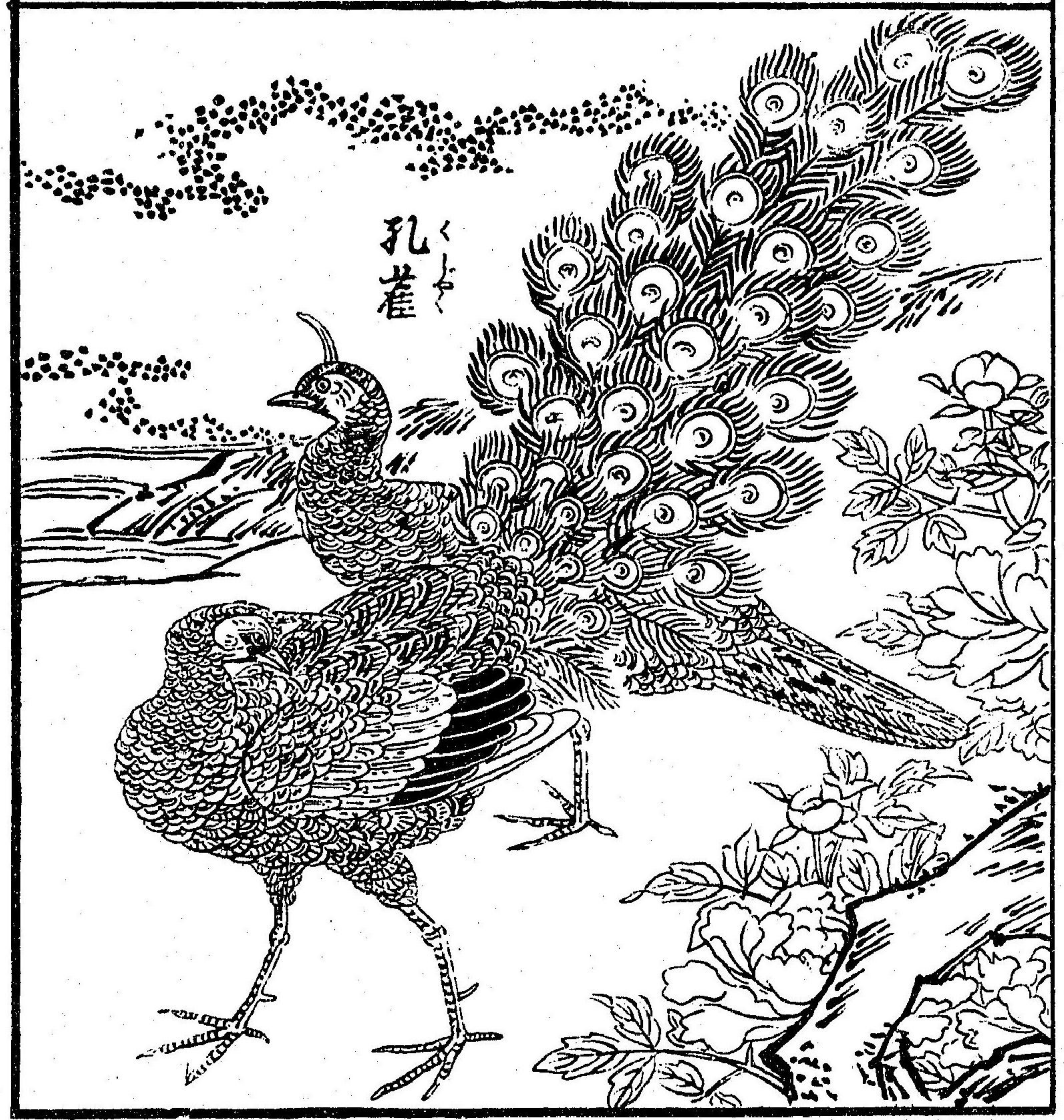
鹿の夏至に角ありて
 秋分ふせくと鹿角水
 牛の角器よつ々
 ○牙の齒のあぐた
 のり象の牙を
 大あしつる物よは
 くら猪の牙の物よ
 つそかめつらふと
 ○駿馬の頸よわ
 てつらつらつら
 のり方々鬃鬃鬣
 めびよ同
 ○蹄のけつらつら
 まれつら麒麟の蹄
 の下に肉ありて物よ
 んでやうつらつら



頭書増補訓蒙圖彙卷之十三
 禽鳥
 ○鳳凰の神靈の鳥
 かなと雄と雌とを
 と鳳のふまのら
 雛ふけつらつら
 来とととととと
 尺声の簫のそ
 生虫と啄と生草
 とふまと桐との
 竹實とととと
 鳳皇瑞鷗並同



○孔雀ハ大ニ鴈ノ
 子大アリクニ
 一ハ一ニモ
 長ク三寸余
 尾ノ五ニ倍
 人ハ何
 尾ノ五ニ倍



孔雀

○錦雞ハ山ノ鳥
 似テ小ク羽色ハ
 久ナリ孔雀ノ
 糸鶏並同
 ○白鷓鴣ハ山雞ノ
 色白ク黒ク
 わり尾ノ長ク
 足ノ中ニあり食
 之解



白鷓鴣

錦雞

○鶴の長さ三尺五寸
 三尺余喙乃長三四
 五寸項月頰わく
 脚のどく頸を指
 やそく羽白くつと
 黒一夜半にた
 声わたりてるむ
 養魚の化を
 ○鶴の鶴にたつと
 き丹々をくび長
 喙わくを灰白つ
 さ黒一本に葉
 ○鶴の鶴鶏より
 まつつか



○鴈の大きき鴈と
 ひふかかと鴈と
 久しく食をい
 氣ととて骨を
 さうんあ
 ○鴻の鴈の大ききもの
 ありは満ち多くわ
 つまらぬふゆい
 五勝と利一本石の
 毒と解を
 ○鶴の鴈より大なり
 羽白くさくお味ひ
 わく平毒の人の
 気かま一脱肺を



○鶺鴒の春白の二又
 わりすなご縁味黄
 中をい
 に脚紅多りよく同
 食とまの五勝の熱
 と解と
 ○鶺鴒のくちら息は地
 ちる花さくわらさ
 羽久白とりの頭黒
 さいもの羽色のじ
 大寒毒かー風虚
 寒熱水腫と治と
 ○鶺鴒の鳩のたかや
 どの陸とりのむこ
 くのてんがふ入て



魚ととも
 ○鳥の品類多く大
 小のり羽をまもく
 まう圖をさるる俗
 みの直鴨の中か
 捕ひきはは目や手
 ○鶺鴒の白と鴿のど
 喙まぐむりり飛
 七日ふくや海をこ
 恒三月と卵とい
 ○鶺鴒のくちら鴨の如
 一を昔黒羽音くひ
 のよまあり夫婦和
 鶺鴒のくちら鴨の如



〇鶺鴒の大き鳩より少し
 一より喙脚長く
 羽茶色黒とよる
 田沢ふそむ大小わり
 大の羽がとちやく
 〇鶺鴒の鴉に似て
 頭長く喙少し長
 一水小入てく魚
 ともる林木よ巢く
 〇漁人くく魚
 〇鶺鴒



鶺鴒

鶺鴒

〇鶺鴒の頭めく長
 喙脚より長
 小の羽は長
 〇鶺鴒の水鳥がり
 大と路鳥のくく灰白
 色背黒とせく
 〇鶺鴒二名朱路鶺
 俗ふはく



紅鶺鴒

鶺鴒

路鶺鴒

○就鳥の鷹
乃大ののめ
なり至て大
るの七八ふ
ふ其色ハ
黄くくも
黒くふり
黄黄かり
深山にそ
空の中を
く獸とつ
鳴



○皂鵬の鷹の大
なるのかり翅つ
く空の中をく飛
ゆらり諸鳥のつな
及びと獸とそり食
ふ其長三寸尺わり唐
土少く大鷹といふ
ハ就鳥皂鵬といふ
外日本はくハ大
鷹と稱するものハ
隼なりといふ

皂鵬
くまたら



○鷹の物名ゆて大
 小その品多く愛撫
 の鳥かや田獵ふも
 ちひく諸鳥とて
 志むる事その
 神功皇后の御代
 百濟國よりもとて
 鷹が献ぜしとや
 とまふり代に鷹と
 してのそびあし鷹は
 朝鮮國乃産と牙一
 と



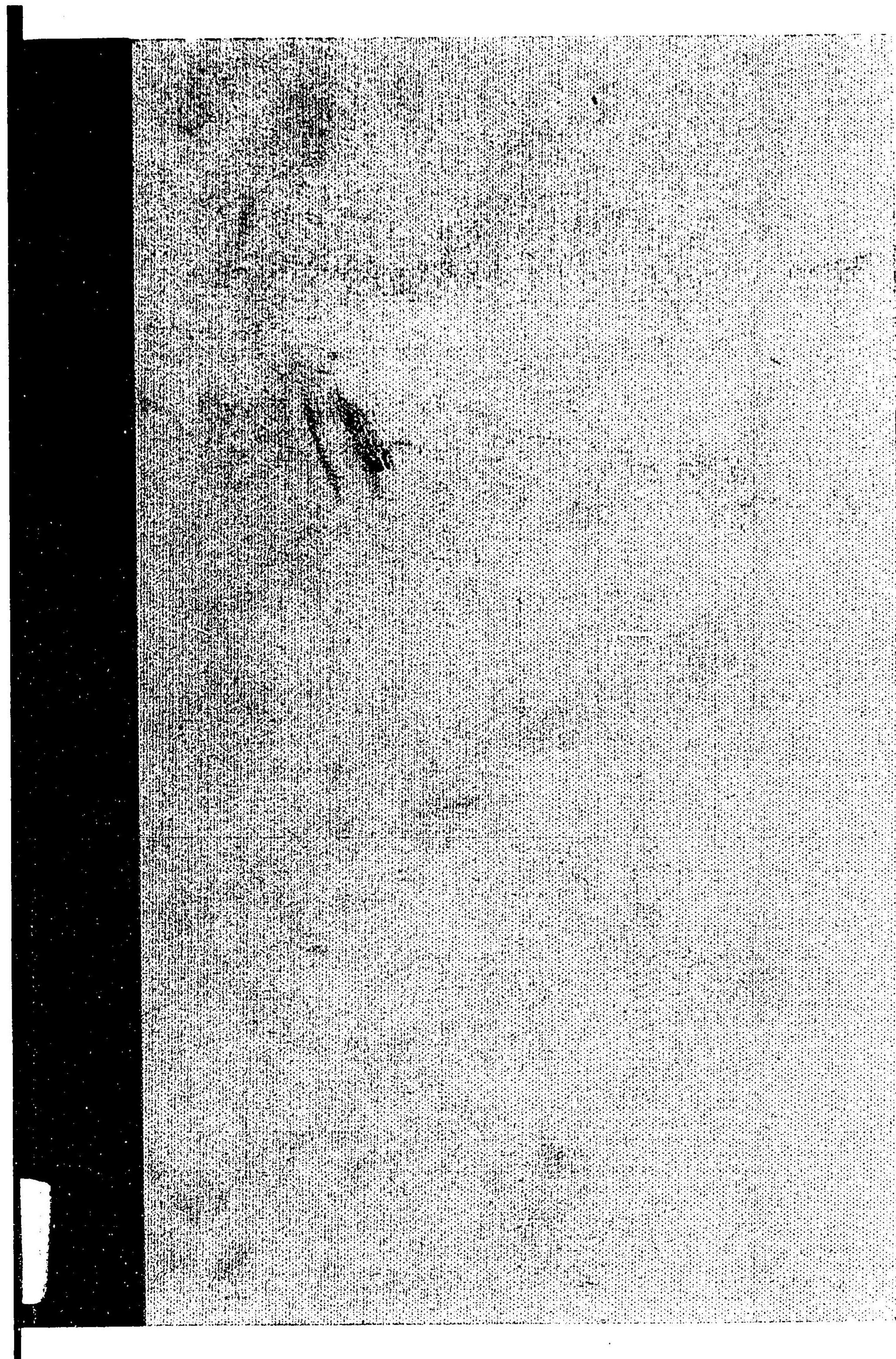
鷹
 たか

○隼の鷹の中ゆく
 とらねりののり形
 大ゆして鷹のゆて
 を雄鷹鴨のゆて
 鳥とてま鶴か
 隼と二羽
 り鶴同
 ○鶴の鷹のゆて
 かり鶴のゆて
 鶴のゆて
 雀鶴のゆて
 かしんく



隼
 白鷹

2W-43



頭書増補訓蒙圖彙 卷の12

国立国会図書館

203841-000-3

特55-196

頭書増補訓蒙圖彙 卷の12, 13

〔出版者不明〕

〔M8?〕

EDO-0063



特

1

